

を多く包含して其研究が古代文化闡明の上に有つ重要な限り無く大きい時斯る研究への一手引として有益なものと思はれる。此を機會に斯る調査が各地方に多數出版されん事を希望したい。(菊判一七二頁、大阪府、非賣品)

〔藤〕

●校定出雲國風土記

出雲國風土記は聖武天皇の天平五年に勅造され現存する諸風土記中最も完全なものである。併し乍ら其の傳本に誤謬が多く、從來繙讀研究に遺憾な點が少くなかつたのを、島根縣皇典講究分所に於て大正十年に之が研究会を起し、幾多の郷土史家相集まつて二十數種の異本によつて之を校訂し、前後八年を費して殆んゞ完璧に近い定本を得、宮地直一博士の校閱を経て之を上梓し、別に精巧なる天平時代の出雲國想像圖を附して會員に頒布したが、此度其の殘本を希望者に實費を以て頒つゞのこゝである。古典に趣味を有する人々は一本を求められる必要があらうと思ふ。(和本半紙判本文七三枚、索引十四枚)

松江市、島根縣皇典講究分所發行、特製貳圓、普通本壹、貳〇圓、送料六錢〔松野〕

●東福寺誌

白石 芳留編

今春四月舉行された開山六百五十年忌記念出版として編者の手稿『禪宗編年史』中より特に東福寺、萬壽寺、普門寺、三聖寺等に關する建久四年より享和二年に亙る事項を抄録して編年體に整理したものである。大體大日本史料の體裁に倣ひ、先づ簡潔な綱文を掲げて其重要事項には資料を載せ、然らざるものは根據を記して史實の正確を期してゐる。事項の豊富に資料の博搜は本書を宗門歴史の研究に缺くべからざる資料集とする。又重要名辭はゴシック印刷として搜覽の便を計り、各時代の重要事項を小字に註して背景としての一般情勢を知らしめ以て各事項の有つ意義を理解せしめようとする。附録には綱文を掲げて一覽に便にし、東福其他諸寺の住持歴代、東福寺末寺異同表を加へてゐる。其豊富な材料に周到な編纂は宗門の消長を窺ふべき好古のものとして、開山年

忌を記念する此上なき勞作云はねばならない。(菊判一
二三七頁、東福寺發行、非賣品)〔藤〕

● 榊尾山
高山寺明惠上人

村上素道編著

鎌倉時代、法然、親鸞、榮西等の諸高僧が出現した際に、教界の明星として一方に光輝を放つてゐたものは明惠上人であつた。本書は上人が流離困厄の中に在り乍ら毅然として聖道の復興の爲めに起ち、如來の正法を末世に實行せんむ努力した生涯の行蹟を詳叙したもので、著者が禪僧であり乍ら上人を景慕する餘り、各種の史料を討ねて之を著はされたのである。その内容は、初めに行實年譜を記し、次に逸事、法語、交遊、餘譚を述べ、附録として系譜、上人著作目録、日用清規、高山寺置文等を載せてあつて、上人の全象を明にせんむ努めてある。明年は上人の七百回遠忌に相當るが、此の際に本書が出て、此の高僧の清高なる人格を世に傳へるのは誠に悦ばしい事で教界に感動を興へることが鮮少でなからう。

(菊判三四〇頁、榊尾高山寺發行、價參圓)〔松野〕

● 修訂 建武年中行事註解 和田 英松著

建武年中行事は後醍醐天皇の御撰、順徳院の禁祕御抄と共に有職故實の研究に最も重要な典籍をなすものなることは後水尾天皇が兩者をならべあけて寔に末の世の龜鑑なりとたゞへ給うた御言葉によつても知ることが出来る。然るに禁祕御抄には古來數多の註釋書があるに反し、建武年中行事は窺ひ見るべきもの少く僅に谷村光儀の略解があるのみ、それも文字通りの略解であり、且つ本文にも亦誤脱が尠くない。本書はかくの如き缺を補はんが爲に著書が嘗て群書類説本を原し諸本を以て對校すると共に、その全文に就いて詳細な註解を加へて公刊されたもの、増訂再刊である。別に附録として同じく後醍醐帝の御撰たる日中行事に就いて大石千引の略解を校定し附載してゐる。著者はかくの如き仕事に最適の人現實の種々なる事情に餘儀なくされて古典の教養に貧しからざるを得ない現下の學徒に裨益する所が少くない。殊にその卷末に附せられたる詳細なる索引は、本文中に